

令和5年度 府中市緊急医療救護所訓練報告

(保健センター救護所)

1 目的

- (1) テントを設置できるようにし、救護所の設営を実際に行う。
- (2) 備品の保管場所・数量の確認を行い、備品リストを正しくする。
- (3) 実際の運営を想定し、問題点を全員で出し合う。
- (4) 参加者全員が主体的に訓練に関わり、医療救護訓練を体験し、誰がいても、誰がいなくても発災時に救護所の開設ができることを目的として実施する。

2 実施方針

救護所運営主体である健康推進課職員が参画し、各担当間相互の緊密な協力体制を確立するとともに、マニュアルを基本とした訓練を実施し、本番想定の知識の習得と行動力の強化を図る。

3 訓練日時

令和5年11月18日(土) 午後1時から3時まで

※ 訓練想定

発災時間：令和5年11月18日(土) 午前11時

震源・地震規模：多摩西部 最大震度7

4 実施場所

府中市保健センター緊急医療救護所

5 訓練参加者

健康推進課職員 22名(月額任用職員含む) 4名都合により不参加

※資料配布説明 健康推進課職員全員に実施

6 各班役割・割当人数

	班	役割	当日人員
運営部門	通信班	情報収集、病院又は区市町村との連絡調整などを行う。	4名
	事務管理班	医療救護所で使用する医療資器材等を確保する。	2名
	受付誘導班	参集した医療チームを医療救護所の指揮者に案内する。 傷病者をトリアージエリアや軽症処置エリアに誘導する。 その他、来所者の移動の安全管理などを行う。	3名
診療部門	トリアージ班	トリアージを行い傷病者の振り分け	4名
	軽症処置班	トリアージされた軽症者(負傷者だけでなく慢性疾患等を有する傷病者を含みます)に対する治療を行う。	4名
	中等症処置班	中等症や重傷者に対して応急処置を行うまた、病院から離れていて、搬送に時間を要するときには、重症者(最優先治療群)、次に中等症者(待機的治療群)の順に応急処置を行い	3名

	搬送順位を決定する。 なお、搬送までの待機中に中等症者と判定された傷病者の症状が悪化する場合がありますので、バイタルサインや身体所見の変化に細心の注意をする。	
搬送調整班	医療救護所で応急処置を受けて重症者や中等症者を近くの医療機関に搬送する。救護所から離れた病院の場合、搬送先医療機関と搬送手段の確保を行う。	2名

7 訓練内容・スケジュール

時間	内容	場所	備考
13:00～ 13:05	<p><集合・各班点呼></p> 	第1・2 母子保健 室	参集簿に氏名・参集時間等を記載、ビブスを着用し、各班参集状況及び役割を確認する。
13:05～ 13:30	<p><1 備品確認></p> 	各割当て 場所	備蓄倉庫の場所や備蓄品の確認、取扱い等を理解する。
13:30～ 14:00	<p><2 設営訓練></p> 	駐車場	テント4張設置

<p>14:00～ 14:30</p>	<p>< 3 トリアージ訓練 ></p> 	<p>駐車場</p>	
<p>14:30～ 14:50</p>	<p>< 片付け ></p>	<p>駐車場</p>	
<p>14:50～ 15:00</p>	<p>< 訓練終了報告・講評 ></p>	<p>事務室</p>	<p>各班にて振り返り</p>

8 訓練後の主な意見等（抜粋）

1 備品確認・運搬

- 必要な物品について、収納場所を確認し整理することができた。今後も適宜、使用期限の確認や物品リストの更新を行う。

2 前半訓練 | 会場設営／テント組立

- 実際にテントを設営したことで雰囲気や組み立て方を理解でき、テント設営において、想像以上に人数が必要だと分かったため、今後、人員の配置についても検討する必要がある。また、行政においては、定期的に人事異動があり職員が入れ替わるので、対応できるよう毎年、実施する。

3 後半訓練 | トリアージ訓練

- トリアージエリアは混雑が予想されるので、混乱を避けるため、限られた人員で対応できるよう日頃から各職員がそれぞれの役割を確認しておく必要がある。
- 災害時には様々なケースが発生することから関係機関との連携が必須となるため、関係機関内で共通認識をもてるよう日頃からの連携が重要となる。
- トリアージの動線と傷病者が来た際の流れを確認することで、各ブースで不足している物品に気が付くことができた。
- 傷病者の搬送の際に人員が必要だが、想定している配置では不足しているため、今後、人員配置の検討が必要である。